

## ■JBCクラシック(JpnI)アラカルト(過去全22回の分析)

※第2回(平成14年)、第14回(平成26年)、第22回(令和4年)は盛岡2,000m、第5回(平成17年)、第9回(平成21年)は名古屋1,900m、第6回(平成18年)、第12回(平成24年)、第16回(平成28年)は川崎2,100m、第8回(平成20年)は園田1,870m、第10回(平成22年)は船橋ダ1,800m、第13回(平成25年)、第21回(令和3年)は金沢2,100m、第18回(平成30年)は京都1,900m、第19回(令和元年)は浦和2,000mで実施

※記録は令和5年10月20日時点

### ■1番人気馬の3着内率はおよそ8割

単勝1番人気馬は10勝、2着4回、3着3回で、3着内率が77.3%、単勝2番人気馬は3勝、2着9回、3着1回で、3着内率が59.1%、単勝3番人気馬は4勝、2着4回、3着7回で、3着内率が68.2%となっている。上位人気に推された馬、特に単勝1番人気馬が堅実なレースだ。

### ■人気サイドの馬が上位を占めた年も珍しくない

過去22回のうち17回は、単勝3番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝3番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は12回、単勝3番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は6回ある。

### ■GI・JpnI初勝利だった馬は5頭

過去22回のうち17回は、GI・JpnIにおいて1着となった経験のある馬が優勝を果たしている。なお、そのうち15回の優勝馬は、GI・JpnIにおいて複数回の優勝経験があった馬だ。ちなみに、JBCクラシックがGI・JpnIにおける初勝利だったのは、第10回(平成22年)のスマートファルコン、第12回(平成24年)のワンダーアキュート、第16回(平成28年)のアウォーディー、第19回(令和元年)のチュウワウィザード、第21回(令和3年)のミューチャリーである。

## ■ 優勝馬の過半数は 4～5 歳

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 1 勝、4 歳が 6 勝、5 歳が 7 勝、6 歳が 4 勝、7 歳が 3 勝、8 歳が 1 勝となっている。幅広い年齢層から優勝馬が出ているもの、4～5 歳の馬がやや優勢と言えるだろう。

## ■ 優勝を果たした地方所属馬はミューチャリーだけ

所属別の勝利数を見ると、JRA が 21 勝、地方が 1 勝となっている。地方所属馬の優勝例は、第 21 回（令和 3 年）のミューチャリー（船橋）による 1 回のみである。

## ■ 牝馬は優勝例なし、外国産馬は 1 勝

現在のところ牝馬の優勝例はなく、2 着となったのも第 2 回（平成 14 年）のプリエミネンスのみとなっている。また、外国産馬の優勝例も第 16 回（平成 28 年）のアウオーディーによる 1 回のみである。

## ■ アドマイヤドンとヴァーミリアンが“3 連覇”を達成

3 回連続で優勝を果たした馬は、第 2 回（平成 14 年）、第 3 回（平成 15 年）、第 4 回（平成 16 年）のアドマイヤドン、第 7 回（平成 19 年）、第 8 回（平成 20 年）、第 9 回（平成 21 年）のヴァーミリアンと、現在のところ 2 頭いる。また、この他にも第 5 回（平成 17 年）と第 6 回（平成 18 年）のタイムパラドックス、第 10 回（平成 22 年）と第 11 回（平成 23 年）のスマートファルコン、第 14 回（平成 26 年）と第 15 回（平成 27 年）のコパノリッキーが、それぞれ 2 回連続の優勝を果たしている。

## ■ 騎手別の歴代最多勝記録は「8」

騎手別の勝利数を見ると、武豊騎手が 8 勝で単独トップ。安藤勝己騎手、川田将雅騎手が 2 勝で 2 位タイとなっている。

## ■ 調教師別の歴代最多勝記録は「5」

調教師別の勝利数を見ると、松田博資調教師が 5 勝で単独トップ。石坂正調教師が 3 勝で単独 2 位、小崎憲調教師、村山明調教師が 2 勝で 3 位タイとなっている。

## ■ 外寄りの枠番がやや優勢

枠番別の勝利数を見ると、6 枠と 8 枠（各 5 勝）がトップタイ。3 枠（3 勝）が単独 3 位となっている。なお、未勝利の枠番はない。また、馬番別の勝利数を見ると、8 番と 13 番（各 3 勝）がトップタイ。2 番、4 番、5 番、7 番、9 番、15 番（各 2 勝）が 3 位タイとなっている。ちなみに、未勝利の馬番は 3 番、11 番、12 番、16 番だ。

<伊吹雅也>